

地域診断ワークショップを活用したまちづくり学習プログラム・ツールの開発

鵜飼 修（滋賀県立大学 地域共生センター 准教授）

小学校高学年の総合の学習の時間で活用できる「まちづくり学習プログラム」を開発しました。地域診断法ワークショップ（WS）という手法を用いて、地域の持つ本質的な魅力子どもたちが探究するプログラムとなっています。

本研究開発では、5年間試行、実施してきた手法が全国的にも展開できるであろうという仮説のもと、実践データの収録や分析、他地域への視察や情報交換を通じて、その有用性を確認し、実践に協力いただいた多賀町大滝小学校の教員等と協働でプログラムをブラッシュアップし、実践ノウハウを児童用副読本と教員用マニュアルにまとめました。

地域診断法 WS は、生態学を重視した視点と地域を様々な情報に分解、整理、分析・統合することにより、地域の本質的な特徴を明らかにする手法です。ヒアリングやフィールドワークを行いながら、地域を様々な情報に分解する作業と統合する作業を通じて「未来に継承したい〇〇地区の△△△△」は何か、すなわち「地域の目指すべきビジョン」を明らかにします。この地域診断法 WS のステップは、総合的な学習の時間の探究のプロセスとまさに整合しています。地域の本質的な特徴は何か？という課題設定からはじまり、ヒアリングやまちあるきで情報を収集し、整理・分析し、成果をまとめて、交流し、地域仕民に向けての発表を行います。地域診断法 WS の一連の活動の中で探究のプロセスが「繰り返され」、児童の創造性が育まれるとともに、地域を知り、児童と地域とのつながりも育まれるのです。

副読本とマニュアルは以下のホームページからダウンロードすることができます。

多くの地域で実践いただければうれしく思います。

ESD 持続可能なまちづくり学習プログラム <http://eco-minka.com/wp/esd/>



左：児童用副読本

B5 サイズ 22 ページ

下：教員用マニュアル

A4 サイズ 34 ページ

